

日本産業衛生学会

関東地方会ニュース

(題字 高田 昴 筆)

発行所／日本産業衛生学会関東地方会事務局 〒144-8535 大田区西蒲田5-23-22 (<http://jsokant.umin.jp/>)
東京工科大学医療保健学部産業保健実践研究センター内 発行責任者／五十嵐千代 jsok_kanto@sanei.or.jp



お正月の浅草寺本堂

撮影：武田一平氏
提供：平田紀美子氏
稲垣弘文

集うことの力

日本産業衛生学会 理事 山瀧 一 (一財) 君津健康センター



2019年末に新型コロナウイルスが出現してから5年が経過した。最初の数年間は多くの社会活動が縮小され、それは学会活動も例外ではなかった。パンデミックの行く先が見通せない中、代替手段としてITを活用したオンライン方式、オンデマンド方式の学会参加が急速に普及し、学会活動に参加する手段は多様化した。

その後、社会活動は以前の形態に戻りつつあるが、例えば学会プログラムのオンデマンド方式での閲覧といった手段は、これまで会場に直接出向くことが難しかった会員にとって、プログラムに触れる貴重な機会となっている。このような手段は、学会参加の窓口を広げる上でも大きな意義がある。

一方で我々は、直に顔と顔を合わせ交流し、討

議することの意義も改めて認識したのではないだろうか。語り手の表情、声の抑揚、姿勢や身振り、何よりその場の雰囲気は、少なくとも今日の技術では実際にそこに足を運ばなければ体感し得ない。

2023年の第96回日本産業衛生学会(宇都宮市)は、関東地方会企画運営のもと、前年からさらに現地参加枠を拡大して行われた。さらに2024年の第34回日本産業衛生学会全国協議会(木更津市)、そして第1回関東地方会学会(高崎市)では、会場での活発な討議や交流が行われ、ともに熱気あふれる会となった。

学会員には様々な背景があり、参加手段の多様性の確保は今後も求められるであろう。会場に足を運び参加することへの障壁を小さくする取り組みも、より重要性を増すと思われる。学びとともにつながりと元気も持ち帰ることのできる場がいっそう拡充されるよう、引き続き皆様のお力添えをいただきたい。

特集記事 専門職倫理の見直し

産業保健専門職の倫理綱領改定の議論について

武林 亨
(慶應義塾大学)

産業保健専門職が担う役割が複雑化し、果たすべき責任が時に競合するなか、産業保健専門職として活動する際には誰もが、健康に関連する働き方の問題に直面している一人ひとりの従業員のニーズや願いと、雇用主である事業者側あるいは行政による安全衛生の観点からの対応への要請が一致せず、そのバランスに苦慮する場面を経験する(ダブルエージェントあるいは二重忠誠問題とも呼ばれる)。そのような場合にわれわれが拠りどころとすべきものの一つに、倫理綱領(Code of Ethics)がある。日本産業衛生学会では、2000年に、日本の現状と国際水準の検討結果に基づいて産業保健専門職の専門的活動に関する倫理上の一般原則として、「産業保健専門職の倫理指針」を制定、「産業保健専門職はこの倫理指針に基づいて、公正かつ高度の専門性をもって業務の推進に努めるもの」と位置づけてきた。また同時に、「(法整備を含めた活動基盤の)条件整備と実態に応じて必要な改訂が行われる」とも述べている。第1版の制定から20年以上が経過、その間に産業保健を取り巻く状況が大きく変化していることを踏まえ、必要な見直しを行うべしとの気運が高まり、2022年度から改定のためのワーキングチームが設定され、改定作業が開始された。現在、改定第一案が完成し、会員へのパブリックコメント期間中であることから、その経緯について紹介する。

ワーキングチームは、森口業務執行理事をとりまとめ役に、4部会の部会長、地方会長の代表2名、委員会の代表4名(学術、生涯教育、倫理、ダイバーシティ)ならびに副理事長で構成されている。国際産業保健学会(ICOH)をはじめとするさまざまな職能団体の制定状況を調査した上で綿密な議論を重ね、第1版の精神を保持しつつ国際的な動向を踏まえ、名称を「産業保健専門職の倫理綱領」とした上で、すべての学会員の拠りどころとすべく、よりシンプルな形式での改定を行った。その前文(案)は、以下の通りである。

この倫理綱領は、日本産業衛生学会がわが国の現状と国際水準の検討結果に基づいて産業保健専門職の専門的職務に関する倫理上の行動規範を定めたものである。産業保健専門職はこの倫理綱領を参考に、品位を保持し、公正かつ高度の専門性をもって職務の推進に努める。

1) 産業保健専門職とは、専門職として事業者が主導し、労働者が参加して進める産業保健活動を支援し、必要な職務を行うすべての人々

である。産業保健専門職は、職務を遂行する上で専門職として独立性を保たなければならず、職務に必要な能力を修得および維持するとともに、職業倫理に従って職務を遂行することが要求される。

2) 産業保健職務の目的は、個人および組織を対象として労働者の健康の保持と増進、安全で健康的な労働環境を確立し、維持すること、および健康状態を考慮して労働者の能力に仕事を適応させることである。すべての労働者を産業保健の対象とする必要がある。

3) 産業保健専門職の職務は、労働者の生命の保護及び健康の保持増進、人間の尊厳と人権の尊重、事業場の産業保健の方針と活動計画における倫理原則の推進を含む。産業衛生には幅広い分野が関係するため、多職種がそれぞれの職能を尊重し、連携して取り組むことが必要である。

前文に続けて、助言と予防措置、産業保健専門職の立場、専門的能力とその維持向上、情報の管理と活用、学術活動、健康保持増進活動への関わり、環境への配慮、差別の回避、の各項目が制定されている。

タスクフォースとしては、倫理綱領は学会員の経験や知見の蓄積に基づいて作り上げられ、磨かれていくものであり、綱領が広く認識され共有されることによって、産業保健専門職の育成および資質の向上が図られるとともに、事業者と労働者に対して、専門職に求められる役割を明らかにすると期待できると考えているが、いかがであろうか、ぜひ、今回の改定プロセスに、一人でも多くの学会員に参加いただきたい。

現在、学会の会員向け専用サイト(要会員ログイン)より、パブリックコメントを募集中である。
https://www.sanei.or.jp/member/info/individual.html?entry_id=13.397

同ページには、倫理綱領(案)が掲載されるとともに、意見募集フォームも用意されている。意見募集期間は、2025年2月28日までとなっているので、倫理綱領(案)を一読のうえ、ご意見をお送りいただきたい。

また、第97回日本産業衛生学会(2024年5月広島)で、学会員との意見交換の場として交流イベントを開催した際に、「綱領からさらに一歩進め、場面や職種等による役割の違いも踏まえた具体的な行動指針を望む」との意見も多く寄せられたことから、第98回日本産業衛生学会(2025年5月仙台)では、倫理的葛藤が生じた事例を提示しながら意見交換する交流シンポジウムも開催予定である。

倫理綱領は、私たちの存在と行動・活動を支える大事な基盤である。本稿をきっかけに、多くの方に興味を持っていただけることを願っている。

令和6年度 中央労働災害防止協会 緑十字賞 労働衛生 受賞の声**緑十字賞受賞に寄せて**

井上義崇
(三菱電機株式会社)

この度は緑十字賞を賜り、これまでご指導いただいた先生方には心より感謝

申し上げます。

私は産業医大を卒業後20年程麻酔集中治療の領域に携わった後、縁あって三菱電機高周波光デバイス製作所に専属産業医として赴任し、この道の第一歩を踏みだしました。当時三菱電機には10人程の同窓産業医が在籍し、多くは卒業年次では後輩でしたが、産業医業務について諸々ご教示を受ける機会を得て何とか日常業務をこなすことができました。その後本社に赴き、専属産業医30人、非常勤を加えると50人以上の、様々なバックグラウンドを持つ産業医と共に、会社全体のお世話をさせていただきながら、今日に至っております。

この間、ストレスチェックの導入、健診項目の整理や健康情報取扱い規程の制定、職場環境基準改定など、全社的な対応を要する事項について、各方面から様々なご意見を頂戴しながら対処してきました。コロナ対応では、今更ながら医学的知見自体の限界を感じる中、従業員対応や会社(社会)への貢献のあり方を考えさせられる毎日でした。そのような中、三菱電機は品質問題や労務問題で危急存亡の秋を経験し、多くの方々からも企業の組織風土に対して厳しいご指摘を受けました。これらの苦い教訓も踏まえつつ、この度受賞に至ったことは、何よりも会社関係者の組織風土改革への粘り強い努力の賜物と感じています。

従来の法令では対応が難しい課題も縷々生じる昨今、何事も均質性を求める組織文化から創造性を育むDE&Iを目指す経営への変革は、産業保健にとっても新たな付加価値を生み出すチャンスと考えます。私自身は日暮れて途遠しの感はありますが、あるべき姿を求めて今一步精進する所存です。引き続きご指導ご鞭撻の程よろしく申し上げます。

緑十字賞を受賞して

平 貢秀
(日本冶金工業株式会社)

この度、第83回全国産業安全衛生大会におきまして緑十字賞をいただき、大変

光栄に思っています。

私は1992年に産業医科大学を卒業し、産業医大病院第2内科(循環器)と東芝病院で臨床研修を終え、関連会社も含めて約4,000人の東芝富士工場(エアコン工場)(現日本キャリア)で産業医生活をスタートしました。

東芝では工場全体を見て回ることができたので、多くの有害業務、化学物質について、実際の業務を通じて学ぶことができました。その他、在任中に外資との合併があり、ごく短期間での管理職の大量リストラを経験し、残れる人残れない人それぞれのストレス、心理変化に対応したことはその後のメンタルヘルス対応に大きな財産となりました。東芝での産業医生活では、それ以降の産業医の基礎ができたと思っています。その後着任したベネッセコーポレーションでは女性社員が多く、その心理・特性を学びました。現在は男性社員中心の鉄鋼業である日本冶金工業で産業医を続けています。ここでは、診療も行い、地域の医療機関との連携や労災の初期対応や、脳卒中や心筋梗塞などへの救急対応をすることもあります。

その他現在、神奈川労務安全衛生協会での各種作業主任者、衛生管理者の講師や保健対策委員会の委員長として、日本産業衛生学会の指導医を持っている精鋭の専属産業医の人達と活動しています。また、川崎南地域産業保健センターの相談員として中小企業の作業現場指導、メンタル相談などを行っています。川崎には、小さな会社であるけれども、日本の中にはなくてはならない物を作っているユニークな会社も多く、自分自身勉強になり楽しみでもあります。医学部や保健師課程の大学生の産業現場実習も行い、産業医や産業保健の面白みを伝えていると同時に若者から刺激をもらっています。

**令和6年度 中央労働災害防止協会
緑十字賞 労働衛生 受賞の声****緑十字賞受賞に寄せて**

藤田晴康
(群馬大学医学部
公衆衛生学)

このたび令和6年度の緑十字賞をいただくことができました。これまでの私の産業医活動につきご指導・ご支援くださった諸先生方、諸先輩、現場のスタッフの方々に感謝申し上げます。

私の労働衛生分野への関わりは、1979年に群馬大学医学部を卒業後、当時東京の白金台にあった国立公衆衛生院(現、国立保健医療科学院)にて公衆衛生学の基礎を一通り学んだことに始まる。当初疫学を志したが、臨床経験のないまま上京したため再度群馬に戻り、臨床医として研鑽を積むことに専念した。

前橋市内の病院で院長を務めた後、一区切りと考えて産業医の資格を取った。ちょうどそのころ、2003年に、群馬産業保健推進センター(現、群馬産業保健総合支援センター)のセンター長、鈴木庄亮先生から専属産業医の職を勧めていただいたのが本格的に労働衛生分野に入るきっかけとなった。当初はルネサス テクノロジ(現、ルネサス エレクトロニクス)高崎事業所での専属産業医、その後は複数の事業場での嘱託産業医、県・郡市医師会等からのご依頼による産業衛生関連セミナー講師などを務めさせていただいている。特に講習会では群馬労働基準協会連合会とのお付き合いが長く、ここでは、特定化学物質と四アルキル鉛・有機溶剤・酸素欠乏と硫化水素・鉛・石綿・金属アーク溶接による健康障害という広範な分野について、講師として教えるというより、私自身を啓蒙していただくことになった。関係者の皆様に深く感謝する次第である。

**おめでとうございます****令和6年度 中央労働災害防止協会
緑十字賞 労働衛生**

井上義崇先生
(三菱電機株式会社)

岩澤聡子先生
(防衛医科大学校)

平 貢秀先生
(日本冶金工業株式会社)

藤田晴康先生
(群馬大学)

**日本産業衛生学会
第1回関東地方会学会 若手優秀演題賞****若手最優秀演題賞**

関根康寛先生
(北里大学)

若手優秀演題賞

西村壮馬先生
(筑波大学)

櫻谷あすか先生
(東京大学大学院)

研究室紹介

東京医科大学
公衆衛生学分野
小田切優子



当分野は、1945年12月に我が国では初めての公衆衛生学教室として発足した。その後、衛生学・公衆衛生学教室として二講座一教室制の時期を経て、2014年より公衆衛生学分野となり現在に至る。

教育活動では、医学科における公衆衛生学系統講義、クリニカルクラークシップにおける介護施設および保健所実習、看護学科の疫学の講義と演習を担当している。大学院生に対する論文指導に加え、本学で新しく設定された医学科1年生から自由選択科目として参加できるリサーチコースの学部学生の研究指導にも力をいれている。また、社会医学系専門医制度の研修施設として、連携施設の協力も得ながら専攻医の指導も行っている。

研究面では、精神と身体の両面から健康に関わる公衆衛生的課題の解決に取り組んでおり、国際的ネットワークと学際的視点を重視しながら、社会に資する研究を喜びとして活動している。具体的には、職業性ストレス簡易調査票の開発や、身体活動度とメンタルヘルスや認知機能との関連の検討、新型コロナウイルス感染症のパンデミック下での一般市民の感染予防行動や受療行動への影響等に関する研究がある。特に身体活動の研究については、健康日本21(第三次)における歩数・運動習慣者割合の目標値や身体活動支援環境の整備に関する目標の提案やアクションプランの作成等を通じて、国民の健康づくりに寄与、貢献できることを期待している。



地方会長からのメッセージ

第1回関東地方会学会は
素晴らしい会になりました



関東地方会長 五十嵐千代
(東京工科大)

2024年12月6・7日の2日間、
群馬県高崎市で、浜崎 景企

画運営委員長(群馬大)のもと第1回関東地方会学会が開催されました。約300人が参加され、盛会のうちに終わることができました。全国学会と異なり、コンパクトであることや参加者同士の距離が大変に近いことから、普段は聞けないテーマの講演から学んだり、口演発表やポスター発表を聞くことができ、産業保健の幅広さや今時の産業保健の問題を考える良い機会になりました。懇親会も大変、盛り上がり、楽しく親睦を深めることができました。学会に参加された皆様も、「とても楽しかった」「地方会学会の良さがわかった」など、とても好評でした。また、若い会員の方々も、「全国学会だと敷居が高かったが、今回初めて参加して、勉強になった」とのご意見も聞かれ、若い会員の学会活動への参加も促せたように思いました。ご尽力いただきました浜崎 景教授、山崎千穂助教、会場に便宜を図っていただきましたJR東日本健康推進管理センター笠原悦男所長をはじめ、関わっていただきました皆様に心よりお礼申し上げます。

素晴らしい成果物として、特別講演でお越しいただきました日本公衆衛生学会磯 博康理事長と本学会武林 亨副理事長とのご発案から、日本公衆衛生学会と本学会が連携を図り、地域保健・産業保健の問題に取り組むことが2025年1月の本学会理事会でも了承されました。

第2回は2025年7月25日(金)と26日(土)で山野優子企画運営委員長(昭和医科大)のもと「次世代を見据えた産業保健活動ー若手の活躍を期待してー」をテーマとして、昭和医科大学 上條記念館で開催されます。是非に、産業保健の楽しさとやりがいをご共有いたしましょう。

さて、末筆になりましたが、この度の改選において、私が地方会長を継続することとなりました。2期目を迎えますが、地方会のさらなる発展のために取り組んでいきたいと思っております。引き続き、皆様のご理解、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

第34回 日本産業衛生学会全国協議会 開催報告



企画運営委員長
宮本俊明
(日本製鉄(株)
東日本製鉄所)

第34回日本産業衛生学会
全国協議会は、2024年10月
3日(木)～5日(土)の日程で

千葉県木更津市「かずさアカデミアホール」にて開催されました。これまでの全国協議会としては最も規模の小さい地方都市での開催となり、宿泊・交通や運営事務でご心配をおかけしましたが、「一步先の産業保健を切り拓け！～過去から未来への懸け橋に～」をメインテーマに、現地参加が約1,300人、オンデマンド参加も含めた登録者数は1,830名に上り、懇親会はスタッフを含めて330人超の参加となって大盛況で、ほっと胸を撫でおろしているところです。ご参加くださった皆様、ご支援・ご協力を賜った皆様に深く感謝を申し上げます。

全国協議会は四部会と開催地方会が実施主体となっているため、企画運営委員会から提示した企画は実地研修4本と過労死等防止対策のシンポジウム、特別企画、特別講演2本、いくつかの教育講演、メイン企画とした四部会合同シンポジウムくらいでした。あとは関東地方会の四部会を中心にメインテーマに沿った積極的な企画提案があり、希望の全てを叶えることができず正に断腸の思いでしたがパズルのように時間と会場を割り振った結果、参加者が聞きたい内容が揃ったものと思います。またポスター発表も現地のみで実施という学会執行部の意向を汲みましたが、何と133題という事前予想の倍以上となり、これもうれしい誤算でした。その分、プログラム委員会が激務となってしまいましたが、委員長の立道昌幸先生(東海大学)、副委員長の土肥誠太郎先生(モアナ産業医事務所)の的確なご助言のもと、同委員会の事務局局長である山瀧 一と事務局次長の守田祐作と委員の皆様のご尽力で全体像が作り上げられました。

振り返ってみると、私が企画運営委員長を打診されたのは、2022年初旬でオミクロン株が急激に蔓延した頃でした。先が全く見通せず現地参加は最大800人程度と想定し、60年以上の歴史を有する千葉県産業衛生協議会との共催として、その会

長である私が企画運営委員長、副会長である増田将史と楠本真理を実行委員長と副実行委員長に指名して近場で現地対応できる場所として木更津市を選択したものでした。会場予約から2年半たちコロナ禍が終息してみるとやや小規模な施設になりましたが、木更津駅(一部は羽田空港)とのシャトルバスを充実させ、東京駅や横浜駅との民間の直通バスもあることや、無料駐車場が会場地下の広大なスペースに確保されていたことから、結果的に会場間を風雨に曝されずに移動できて一堂に会する形になり、皆さんが熱心に聴講し発表してくださって熱気を帯びた3日間になりました。企画途中でリアル参加者の大幅増加とプログラム提案の多さなどから、山瀧 一に企画運営副委員長の任を引き受けてもらい、私は運営事務局のJTB千葉支店対応や渉外および全体調整として、広報担当の長谷川将之と会計担当の白坂泰樹をあわせて小さな執行部として企画推進し、実行委員会にバトンを渡して当日を迎えることができました。当日のホスピタリティに溢れた運営は実行委員の皆様のおかげです。

さて、肝心の企画内容ですが一部をご紹介します。メインシンポジウムでは次世代育成を主題に、四部会から従来と変えて若手・中堅のシンポジストを招いて、これまで育成されてきた側から今後は育成側に回るイメージでお話を聞くことができました。また特別企画として開催地である木更津・君津の両市長を招き、地域と職員の健康確保をテーマにご講演を聞いた後、企画運営委員長の宮本との鼎談を行い、為政者としての矜持や考え方も知ることができました。特別講演では平野啓一郎氏から「分人」を軸により柔軟な人と人生の捉え方と深い人間洞察を、渡辺俊介氏からは宮本がインタビューする形でプロスポーツ選手としての姿勢および社会人野球の監督としての選手育成の話をお伝えいただきました。

企画の内容はもう少しだけウェブサイトが残りますのでご確認いただくこととして、あとは会場の写真をご覧いただければと思います。今回、多くの方々から力強いご支援を賜り、無事閉会式で次回企画運営委員長の斎藤恵先生にバトンをつなぐことができました。改めましてこの場を借りて篤く御礼を申し上げます。どうもありがとうございました。(文中の企画運営委員会委員は敬称略)



懸け橋を渡りかずさアカデミアホールへ



駅と会場を結んだシャトルバス



会場 かずさアカデミアホール



製鉄所での実地研修



マザー牧場での実地研修



宮本企画運営委員長より開会挨拶



熱弁を振るう西浦博先生



ポスター会場の盛況



各会場での骨太な企画



救急法ほか参加型のプログラムも



自由集会での活発な討議



メインシンポジウムでは人材育成を主題に



キッチンカーでほっと一息



実演を交えて特別講演の渡辺俊介氏



懇親会での渾身のパフォーマンス



特別講演(渡辺俊介氏)



特別講演(平野啓一郎氏)



木更津市長・君津市長との鼎談



模擬裁判



次回は徳島市で 斎藤先生にバトン



みなさま ありがとうございます！

日本産業衛生学会 第1回関東地方会学会 開催報告



企画運営委員長
浜崎 景
(群馬大学大学院)

このたび、日本産業衛生学会第1回関東地方会学会を12月6日(金)と7日(土)の2日間、ホテルメトロポリタン高崎で開催した。見学会を受け入れてくださった東日本旅客鉄道株式会社、株式会社ミツバ、株式会社ボルテックスセイグン、株式会社原田の各ご担当者様にこの場を借りて御礼申し上げます。今回の地方会学会のテーマは「ライフスタイルの力、はたらく人の健康を見つめなおそう!」で、会員247名、非会員47名、学生8名の合計302名の方にご参加いただきました。

初日は私の大会長講演で始まり、その後、五十嵐千代関東地方会会長(東京工科大学)から特別講演を賜り、最後に群馬県内で活躍されている様々な分野の実践家4名をお迎えし、シンポジウムを開催した。2日目は、一般演題(口頭発表11題、ポスター発表15題)が行われた後、毛利一平先生(ひらの亀戸ひまわり診療所/東京労働安全衛生センター)から教育講演を、最後は磯 博康先生(国立国際医療研究センター)から特別講演を賜った。

本学会から新たな試みとして、若手研究者や実践者を対象にエキスパートとの交流の場として「Meet the Experts」を開催した。また、若手(40歳未満)の優秀演題賞を3名選出し表彰した。多くの方々のご尽力により、本学会は成功裡に終えることができた。特に顧問、企画運営委員、プログラム委員、実行委員の皆様にご心より深く感謝申し上げます。

日本産業衛生学会 第1回関東地方会学会



日本産業衛生学会 第1回関東地方会学会 プログラム

企画運営委員長:浜崎 景(群馬大)
開催期間:2024年12月6日(金)・7日(土)
会場:ホテルメトロポリタン高崎

12月6日(金)

実地研修

- ①東日本旅客鉄道株式会社
ぐんま車両センター
- ②株式会社ミツバ富岡工場
- ③株式会社ボルテックスセイグン
- ④株式会社原田 高崎工場
(シャトー・デュ・クレアシオン)

大会長講演

「食と栄養から見た働く人のメンタルヘルス」
浜崎 景(群馬大)

特別講演1

「行動変容につなげる
戦略的ヘルスプロモーションと保健指導」
五十嵐千代(東京工科大)

シンポジウム

- 「働く人の未来を支える健康
～多様化する働き方とライフスタイル～」
- ①株式会社ミツバにおけるコラボヘルスの取り組み
瀧上知恵子(株式会社ミツバ)
 - ②身体機能測定結果から考える中高年齢労働者への健康支援
大内彩子(デンカ株式会社)
 - ③歩く力が未来を変える～「G-WALK+」による従事者と地域住民の健康づくり～
反町麻美(群馬ヤクルト販売株式会社)
 - ④はたらく世代の産業歯科保健について
佐野公永(群馬県歯科医師会)

12月7日(土)

一般演題(口演・示説)

教育講演

「外国人労働者の安全と健康
—私の経験・診察室から垣間見える世界」
毛利一平(ひらの亀戸ひまわり診療所/
東京労働安全衛生センター)

Meet the Experts(多世代・多分野間交流会)

特別講演2

「日本人の生活習慣病の特徴とその予防」
磯 博康(国立国際医療研究センター)



浜崎企画運営委員長より
開会挨拶



五十嵐地方会長より
開会挨拶



実地研修①
東日本旅客鉄道株式会社 ぐんま車両センター様



実地研修②
バスで移動しました



実地研修③
株式会社ボルテックスセイグン様



実地研修④
株式会社原田 高崎工場様



大会長講演



特別講演 (五十嵐先生)



シンポジウム



シンポジウム 演者の先生方と



講演会場



懇親会1



懇親会2



懇親会3



一般演題(口演) 会場の様子1



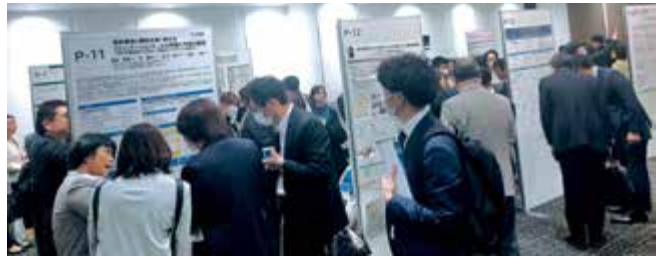
一般演題(口演) 会場の様子2



一般演題(口演) 会場の様子3



ポスター発表会場1



ポスター発表会場2



ポスター発表会場3



ポスター会場ではコーヒーサービスがありました



教育講演



Meet the Expertsの様子1



Meet the Expertsの様子2



特別講演 (座長 武林 亨先生)



特別講演 (磯 博康先生)



特別講演 会場の様子



若手優秀演題賞表彰式



閉会式1



閉会式2



閉会式3

日本産業衛生学会 第2回関東地方会学会開催について

企画運営委員長
山野優子
(昭和大学)

このたび、日本産業衛生学会第2回関東地方会学会を2025年7月25日(金)と26日(土)の2日間、昭和医科大学上條記念館(品川区)で開催することになった。昨年末に第1回の関東地方会学会が開催されたばかりではあるが、その開催前から企画しなければならなかったために、手探り状態で進めてきたという経緯がある。

できるだけ若い学会員に発表の場を作りたいという趣旨もあったため、今回のテーマを「次世代を見据えた産業保健活動—若手の活躍を期待して—」とした。そのようなこともあり、一般演題では、40歳未満の若手枠も企画し、若手優秀発表者賞の表彰も予定している。是非とも、学会活動の登竜門として発表していただきたい。

また、メインシンポジウムは四部会合同での開催とし、「若手学会員からみた専門職の人材育成～産業構造の変化と今後の産業保健を見据えて～」と題して企画した。それぞれの部会から若手が考えている部会活動や学会像などの意見が得られれば、日本産業衛生学会関東地方会での取り組みのヒントになり、今後のより良い産業保健の推進にも繋がると思われる。

さらに、慶應義塾大学名誉教授 大前和幸先生による「産業化学物質と健康影響の疫学」と題した特別講演も企画している。化学物質による過去の産業中毒事例・対策・研究などについて改めて学ぶことができ、今後の予防策や研究に繋げていただけるのではないかと考えている。

参加・演題登録は1月24日から開始している。“全国大会では敷居が高いが、地方会なら発表できるのでは”と迷っておられる研究者や実務家の方々にも、ぜひともこの機会を利用して演題を投稿していただきたい。多くの方のご参加を願って、現在準備を進めている。

日本産業衛生学会 第2回関東地方会学会



次世代を見据えた産業保健活動
—若手の活躍を期待して—

画:「ハイジア」ギリシア神話の健康の女神、クリト作

2025年 **7月25日(金)** **26日(土)**

企画運営委員長
山野 優子
(関東産業衛生技術部会長・昭和医科大学客員教授)

昭和医科大学 上條記念館

プログラム (予定)

研究会・部会研修会
四部会合同シンポジウム
一般演題 実地研修(企業見学会) 等

参加・演題登録
1月24日(金)より 受付開始

学術集会ホームページ
<https://jsokht2.yupia.net/>

お問い合わせ
運営事務局 株式会社ユピア
〒456-0005 名古屋市熱田区池内町3-21
FAX: 050-3737-7331
Mail: jsokht2@yupia.net

主催
日本産業衛生学会関東地方会

HP (<https://jsokht2.yupia.net/>)



関東産業医部会報告



加藤憲忠
(富士電機)

2024年度の関東産業医部会研修会を2024年12月21日に慈恵医大で開催した。テーマは「働くミドルからシニア世代の健康支援」

で、座長は伊東明雅先生(朝日新聞社)が務めた。

柴田先生は、最初に転倒災害の現状(増え続けている、50歳以上の女性が多いなど)を説明された。さらに転倒の2大原因である「つまずき」と「すべり」について設備・環境側、歩行者側の両面から対策を説明された。

井手先生は、プレゼンティーズムの背景に、加齢男性性腺機能低下症候群(LOH症候群)いわゆる男性更年期障害が関わっていることを指摘された上で、生活習慣の留意点や主な症状や診断・治療法などについてお話しされた。

朝倉先生は、まず日本人において、死亡やDALY(Disability-adjusted Life Year)に影響が最も大きい食事因子が「食塩の過剰摂取」、「食物繊維摂取量の少なさ」と指摘された。その上で年代・性別ごとに、生活習慣の改善点について解説された。

小川先生は、はじめに女性特有の健康課題による経済損失の大きさについて言及された後に、更年期障害の成因、主な症状、診断基準を解説された。さらにホルモン補充療法を含めた主な治療法について、期待される効果や懸念される副作用について解説いただいた。

いずれの講演も大変興味深く、盛会裏に終了した。関東産業医部会では、今後も部会員のニーズに合った研修会を企画する予定である。

プログラム

1. 「職場における転倒災害防止」
労働安全衛生総合研究所 リスク管理研究グループ
柴田 圭先生
2. 「産業医のための男性の更年期障害の知識」
順天堂大学大学院医学研究科 泌尿器外科学講座
井手久満先生
3. 「職場での食生活指導に役立つ知識
～食塩と食物繊維を中心に～」
東邦大学医学部 社会医学講座予防医療学分野
朝倉敬子先生
4. 「産業医のための女性の更年期障害の知識」
福島県立医科大学 ふくしま子ども・女性医療支援センター
小川真里子先生

関東産業保健看護部会報告



瀧本みお
(日立製作所)

2024年10月3日の全国協議会において関東地方会産業保健看護部会主催で実地研修会を行った。テーマは「あらたな新興感染症発生

時に産業保健スタッフが対応すべきこと ～次のパンデミックのためのシナリオトレーニング～」である。講師は日本赤十字看護大学の吉川悦子先生にご依頼し、参加者28名とファシリテーター9名でグループに分かれ、グループワークを中心に行われた。もし今、あらたな新興感染症が発生したら産業保健看護職としてどのように対応するか、専門家としてどのような意見を述べるかについて各グループでシナリオに沿って議論を進め、学びを深めた。事業所総務所属の方も参加していただき、様々な立場から感染症のリスクアセスメントとリスクマネジメントを検討することができたと考える。

昨年も同様のテーマで実地研修会を行ったが、今回はリスクアセスメントのための情報検索にチャットボットを利用するという新たな試みを取り入れた。各グループのファシリテーターがPCで参加者からの質問を代表して入力するとチャットボットが回答し、モニター画面で情報を共有する形である。

アンケートでは集中して取り組むことができ、2時間の研修が短く感じたという意見が多数あり、丁寧な説明とワークで構成されていて勉強になったという好意的な感想をいただくことができた。今後も皆様の日頃の活動に役立ち、互いに学び合える場として研修会を企画していきたいと考える。



関東産業衛生技術部会報告



中村 修
(筑波大学環境安全管理室)

2024年7月27日(土)に「化学物質の自律的管理～それぞれの立場から考えること～」と題して第48回関東産業衛生技術部会研修会

(於 帝京大学板橋キャンパス)を開催した。参加人数は、現地参加53名、オンライン参加208名であった。

労働安全衛生規則等の改正により、国は事業場における化学物質の取り扱いを、事業場主体の自律的化学物質管理に移行し始めた。リスクアセスメント対象物質を取り扱う事業場では、事業場の規模にかかわらず化学物質管理者の選任が必要になる。また、産業衛生技術職は自らが化学物質管理者に選任されなくても、その専門性を活かして化学物質管理における協働が求められている。

化学物質管理者の具体的な実践報告は珍しかったため、これまでになく多くの方に参加いただいた。津田洋子先生(帝京大学)より法令改正の概要をご説明いただいた後、呉田香苗子先生(三井化学)より大規模事業場の取り組み例、山田麻友美先生(青山学院大学)より自律的なばく露管理の実践報告、瀧本みお先生(日立製作所)からは産業保健看護職の立場から作業場改善に貢献した事例の報告がそれぞれ行われた。質疑応答も活発に行われ、このテーマの関心の高さがうかがえた。

関東産業衛生技術部会は第2回関東地方会学会の主幹として準備委員会を立ち上げ、日々、企画等を検討している。日時は2025年7月25日・26日、昭和医科大学上條記念館で開催する。演題登録は2025年1月24日より開始しているので、たくさんの学会員に参加してほしい。

HP(<https://jsohkt2.yupia.net/>)

なお、地方会活動の活性化に備え、物質・材料研究機構の鈴田佳子先生と東京大学の水口裕尊先生に新たに関東産業衛生技術部会世話人に加わっていただいた。強力な新戦力を得て、益々活発に情報の発信や会員相互研鑽の機会の提供を行っていききたい。

関東産業歯科保健部会報告



澁谷智明
(日立製作所)

1. 第34回日本産業衛生学会全国協議会 2024年10月3～5日(木更津市)

1) シンポジウム「職域において閉塞性睡眠時無呼吸(OSA)にどう対応すれば

良いか？」が座長:安田恵理子先生(大歯大)、堀川早苗先生(千葉県歯科医師会)のもと、(1)医科の立場から:角谷 寛先生(滋賀医大)、(2)歯科の立場から:田賀 仁先生(田賀歯科)、(3)保健師の立場から:柏村早紀先生(東京地下鉄)で行われた(参加者98名)。

2) 教育講演 兼 産業歯科保健部会後期研修会「職域における慢性疼痛や身体違和感などの訴えにどう対応するか？」が久篠奈苗先生(東京家政大)、石井広志先生(千葉県歯科医師会)を座長のもと、(1)医科での対応:清水栄司先生(千葉大): (2)歯科での対応:和気裕之先生(みどり小児歯科)、(3)心理師としての対応:桑山佳子先生(日立製作所)、(4)理学療法士としての対応:古泉貴章先生(顎関節ケアセンター)で行われた(参加者66名)。1)、2)ともに多職種の先生方のご講演ということもあり、多くの職種の方々からの活発な質疑・応答があった。

3) 他企画として(1)メインシンポジウム「人材育成と次世代へのつなぎ～育成される側から育成する側へ」で、安田恵理子先生が座長、沼田和治先生(うぐるす歯科)が演者として登壇した。(2)生涯教育委員会シンポジウム「GPS(良好実践事例)の活用～有害要因のばく露防止対策(基礎的事例)を中心に～」で、尾崎哲則先生(日大)が指定発言を行った。(3)ダイバーシティ推進委員会フォーラム「中小企業で働く人々を支える産業保健専門職」で、戒田敏之先生(茨城県歯科医師会)が演者として登壇した。(4)産業保健看護部会フォーラム「働き盛り世代の健康を支える産業保健看護」～口腔保健を考える～では澁谷が基調講演を行った(参加者55名)。

2. 第1回関東地方会学会 2024年12月6日・7日(高崎市)・シンポジウム「はたらく人の未来を支える健康～多様化する働き方とライフスタイル～(関東産業歯科保健部会後期研修会を兼ねる)」で、佐野公永先生(群馬県歯科医師会)から「はたらく世代の産業歯科保健について」のご講演をいただいた。

関東地方会研究会報告

健康的な職場づくり研究会

大久保茂子
(昭和大)

2024年10月4日(金)に第34回日本産業衛生学会全国協議会シンポジウムとして第3回研修会を開催した。作業関連性運動器障害研究会と共同開催であり、当日の参加者は約120人であった。メインテーマを「フィジカル面から産業保健を支援する一人間工学と産業理学療法学の視点から」とし、座長を大久保茂子(昭和大)、岩切一幸先生(安衛研)として講演を企画した。

本シンポジウムの前半の2演題では、田中孝之先生(北海道大)からセンサースーツを装着してのリスク評価やアシストスーツを装着しての負担軽減対策などについて、吉川悦子先生(日本赤十字看護大)から人力での患者や要介護者の抱え上げは行わないノーリフトケアに着目した、作業負担を軽減するための福祉用具の必要性などについてお話しいただいた。

後半の2演題では、田 啓樹先生(昭和大)から医療従事者を対象とした腰痛リスクに関連する身体的要因に関する研究報告と病院での実際の腰痛予防の取り組み事例について、佐藤友則先生(東北労災病院治療就労両立支援センター)から職場における腰痛予防対策や従業員の健康づくりなど、産業保健分野における理学療法事例・活動報告を通して、理学療法士が持つポテンシャルやこの分野で貢献できることについてお話しいただいた。時間の許す限り沢山の質問が挙がり、大変活発な総合討論となった。

今後も役に立つ研修会を企画していく予定である。学会員の皆様には是非ご参加いただきたい。



会場の様子



総合討論

中明賢二先生のご逝去を悼んで

中明賢二先生のご逝去を悼む

伊藤昭好
(労働安全衛生総合研究所、
元労働科学研究所所員)

麻布大学名誉教授の中明賢二先生が、去る11月26日に逝去された(享年84歳)。2023年秋、水戸の日本労働衛生工学会ではお元気な様子をお見かけしていたのに、残念でならない。

先生は、高校卒業後、短期の食品工場勤務後、1959年、労働科学研究所(当時)に研究助手として就職、勤務の傍ら東京理科大Ⅱ部を卒業され、研究員に昇格、1979年には東北大学で医学博士を授与された。労研では粉じんの木村菊二先生と並んで、ガス状物質や金属類の測定・評価の両輪として活躍された。筆者もお二人から現場で多くの薫陶を受けた。1990年に労働衛生病理学研究部長に就かれたが、翌年麻布大学環境保健学部教授に転出され、多くの教え子を輩出された後、2005年に定年退職された。

日本産業衛生学会においては、理事を務められたほか、奨励賞(1991年)、功労賞(2014年)を受賞、中央労働災害防止協会顕功賞(2016年)、厚生労働大臣表彰功労賞(2017年)も受賞されている。

先生の多くの功績の中で、忘れてならないのが、産業衛生技術部会の設立に尽力、初代部会長として重責を果たされたことにある。2001年の部会設立の前年、準備会世話人代表として講演、本邦初の原子力災害死を引き起こしたJCO事故を取り上げ、今「技術屋」がすべきことを強く訴える内容であった。部会長を退任された後も、2006年の技術部会独自の奨励賞創設にあたり、副賞を寄付され、この賞は長く「中明賞」と称された。

今でも、後進の学会発表に質問で立つ際の「中明です。」の声を忘れられない。合掌。



2023年5月に開催された第96回学会(宇都宮)において、技術部会から功労賞を受賞された中明先生

2024年度選挙結果について

日本産業衛生学会 関東地方会
選挙管理委員長 能川和浩
(千葉大学大学院)

2024年日本産業衛生学会関東地方会会長、関東地方会代議員、関東地方会選出理事候補者の選出結果についてご報告申し上げます。ご協力いただいた会員の皆様に深く感謝申し上げます。

【関東地方会会長・代議員選挙結果】

関東地方会会長 定員1名

五十嵐千代 (敬称略)

関東地方会選出代議員 定員349名(下記参照)

立候補による被選挙人数400名 投票者数1,224名

秋元 史恵	内田 さやか	加藤 憲忠	小林 宏明	諏訪園 靖	鶴谷 由美恵	橋本 悠	牧之内 崇	矢野 久沙
秋山 美佳	梅田 ゆみ	加藤 博子	小林 祐一	関屋 裕希	照屋 浩司	長谷川 梢	増澤 清美	山内 貴史
朝倉 敬子	浦井 史恵	神奈川 芳行	小林 由佳	平 貢秀	道喜 将太郎	長谷川 将之	増田 将史	山内 武紀
朝倉 美智子	潤間 励子	金澤 英紀	小宮山 千賀	高尾 淑子	藤間 俊彦	長谷川 由希子	栢元 武	山岸 良匡
浅沼 一成	遠藤 源樹	上條 英之	近藤 弘子	高木 恵理子	土岐 了大	浜口 伝博	松井 和隆	山口 敦子
安部 仁美	遠藤 綾子	亀井 美登里	今野 瑠美子	高木 智子	徳丸 裕美	濱田 篤郎	松井 春彦	山澤 文裕
荒川 真奈美	大久保 茂子	萱場 隆人	才津 静	高倉 一樹	土肥 誠太郎	浜谷 久里	松浦 真澄	山田 杏子
荒木田 美香子	大久保 靖司	柄澤 智美	財津 崇	高田 礼子	富澤 亜樹	林 聡子	松坂 亜紀子	山田 耕太郎
荒武 優	大越 裕文	荻田 香苗	齋藤 篤之	高橋 司	富永 知美	林 卓哉	松田 しのぶ	山田 丸
有馬 秀晃	大崎 陽平	川井 三恵	齋藤 照代	高橋 由紀子	富山 紀代美	林 幹浩	松田 有子	山田 洋太
安藤 明美	大里 厚	川上 憲人	齋藤 宏之	高宮 義弘	豊岡 達士	林 康博	松永 直樹	山瀧 一
飯田 美穂	大澤 真奈美	川崎 優美	齋藤 有希	高元 礼衣子	豊田 勇輝	林 洋子	馬目 佳信	山中 淳
飯田 裕貴子	大塚 泰正	川野 晃一	坂本 宣明	鷹屋 光俊	中尾 誠利	原田 成	三廻部 肇	山野 莊太郎
五十嵐 千代	大橋 力	神田橋 宏治	櫻井 蘭子	瀧本 みお	中澤 祥子	原田 若奈	水口 裕尊	山野 優子
猪狩 和之	大原 博美	菅野 章子	櫻谷 あすか	竹内 幸子	永島 昭司	東 尚弘	溝口 かおる	山内 直人
池田 有	大山 篤	菊地 央	佐々木 那津	竹下 溪	中島 由紀子	東川 麻子	道川 武紘	山村 憲
石井 徹	岡崎 香波	岸 香織	佐々木 美奈子	竹島 望	永田 皓太郎	人見 敏明	三橋 祐子	山本 健也
石井 里絵	小笠原 隆将	貴志 孝洋	笹原 信一朗	武林 亨	中田 暁	平井 康仁	宮越 雄一	山本 純子
石川 智久	岡田 睦美	岸本 真恵	佐藤 左千子	田島 麻琴	永田 英恵	平野 翔大	宮崎 寛	山本 美和子
石川 知美	岡林 知代子	岸本 剛	佐藤 裕司	多田 慎一郎	中野 愛子	平野井 啓一	宮本 俊明	山本 恵
石川 幸枝	岡原 伸太郎	北村 文彦	佐野 麻里子	多田 由布子	中野 真規子	広瀬 沙織	武藤 剛	湯浅 晶子
石塚 真美	岡本 博照	橘川 志延	品田 佳世子	立道 昌幸	中原 浩彦	廣田 幸子	村田 勝宏	与五沢 真吾
石山 明美	岡本 里佳	木戸 尊将	柴崎 智美	田中 暁子	中村 修	深澤 健二	村田 千里	横山 啓太郎
一瀬 晴子	小川 智江	絹川 千尋	柴田 匡邦	田中 久巳彦	中村 憲司	福平 さやか	村松 淳	横山 雅子
伊藤 昭好	小川 真規	木村 絵梨	渋谷 理恵子	田中 完	難波 克行	福本 正勝	村山 亜矢子	吉岡 亘
伊藤 雅代	小熊 香織	久篠 奈苗	島 忍	田中 美樹	西 大輔	二川 淳美	室井 慧	吉川 悦子
伊藤 美千代	尾崎 哲則	楠本 真理	島崎 崇史	谷川 武	西浦 千尋	淵上 博司	持田 伸幸	吉川 徹
伊東 明雅	小田切 優子	久保 恵子	島津 明人	谷山 佳津子	錦戸 典子	古川 晴子	望月 徹	吉野 聡
井上 茂	小沼 浩美	久保 智英	島田 直樹	種市 康太郎	西郡 晴美	古澤 真美	望月 麻衣	米山 裕子
井上 津奈	戒田 敏之	久保田 裕仁	島本 さと子	田山 織江	西埜 規秀	古屋 善章	望月 由紀子	若林 佳奈
今田 玲奈	加賀谷 恵示	熊谷 和浩	下山 満理	千代田 亘弘	西山 寿子	紅谷 悠貴	守田 祐作	和田 耕治
今村 幸太郎	柿沼 歩	藏田 清文	須賀 万智	津田 洋子	西脇 祐司	宝地戸 優嘉	森分 勝人	和田 裕雄
伊與木 瑠子	掛本 知里	栗山 一彦	杉森 裕樹	土屋 智美	二ノ宮 京子	帆苺 なおみ	安田 順一	渡邊 朝妃
伊従 正博	笠間 康子	黒岩 桜	鈴木 亜由美	土屋 文枝	根本 博	星野 寛子	安田 朋弘	渡辺 和広
岩澤 聡子	柏村 早紀	黒岩 由紀	鈴木 雅子	堤 明純	能美 知佐子	穂積 桜	安田 信彦	渡部 真弓
印東 桂子	梶原 隆芳	黒田 玲子	鈴木 真鳥	堤 多可弘	能川 和浩	堀 愛	矢内 美雪	渡邊 由美香
牛澤 浩一	片山 梨沙	後藤 理絵	鈴木 義浩	常藤 さおり	野崎 律子	堀 大介	柳 延亮	渡辺 祐哉
薄井 久美子	加藤 京子	後藤 桜子	鈴木 佳子	津野 香奈美	野寺 誠	前田 俊子	柳澤 裕之	
内田 和彦	加藤 元	小林 寿子	住田 洋子	角田 正史	橋本 晴男	牧 信子	柳場 由絵	

【関東地方会選出理事候補者選挙結果】

関東地方会選出理事候補者 定員11名

五十嵐千代 (東京工科大)

大橋 力 (東京海上日動火災保険)

須賀万智 (慈恵医大)

武林 亨 (慶應大)

堤 明純 (北里大)

土肥誠太郎 (MOANA土肥産業医事務所)

中野愛子 (日立製作所)

能川和浩 (千葉大)

東川麻子 (OHコンシェルジュ)

宮本俊明 (日本製鉄)

山瀧 一 (君津健康センター)

(50音順、敬称略)

通達・行政ニュース

山本健也
(労働安全衛生総合研究所)

「過労死等の防止のための対策に関する大綱」の変更

「過労死等の防止のための対策に関する大綱」が見直され、令和6年8月2日に閣議決定された。大綱は「過労死等防止対策推進法」に基づく今後3年間における取組について定めるものであり、今回は大綱策定10年のこれを振り返り、令和3年に続き3回目の変更である。主な変更点は「①対策強化:令和6年4月から全面適用された時間外労働の上限規制の遵守徹底、過労死等の再発防止指導の強化指導、フリーランス・事業者間取引適正化等法の施行後の各種対策の強化」「②調査分析の拡充:芸術・芸能分野を重点業務に追加、また過労死等事案について、事業主に義務付けられているハラスメント防止措置の状況の着目した調査・分析」「③職場の取組推進:業種別のカスタマーハラスメント対策の取組を支援、管理職や上司、若年労働者に対する労働関係法令の研修等を実施等の関係者による取組の推進」などが挙げられている。

フリーランスとして安心して働ける環境を整備するためのガイドラインの改訂

令和3年3月26日に内閣官房・公正取引委員会、中小企業庁および厚生労働省の連名で公表されている標題のガイドラインが、令和6年10月18日に改訂された。初回ガイドライン公表後の令和5年5月に公布された「特定受託事業者に係る取引の適正化等に関する法律(フリーランス・事業者間取引適正化等法)」(令和5年法律第25号)が令和6年11月1日に施行されることを踏まえたものであり、同法が個人として業務委託を受けるフリーランス(事業者)と企業などの発注事業者の間の取引の適正化、フリーランスの就業環境の整備を図ることを目的に「①取引の適正化を図るため、発注事業者に対し、フリーランスに業務委託した際の取引条件の明示等を義務付け、報酬の減額や受領拒否などを禁止する」「②就業環境の整備を図るため、発注事業者に対し、フリーランスの育児介護等に対する配慮やハラスメント行為に係る相談体制の整備」等を義務付けていることを踏まえ、事業者

とフリーランスとの取引についての留意点や法令に基づく問題行為の明確化等について見直しが行われている。なお、本ガイドラインでは初版より「労働基準法における「労働者性」の判断基準」が示されている。

なお、フリーランス・事業者間取引適正化等法については「[フリーランスとして業務を行う方・フリーランスの方に業務を委託する事業者の方等](#)」(厚生労働省)ほか公正取引委員会等のウェブサイトにて情報発信がされている。

化学物質管理強調月間の実施

厚生労働省は令和6年11月29日に、令和7年2月1日から2月28日までの1か月間、「化学物質管理強調月間」を初めて実施することを公表した。「化学物質管理強調月間」は、職場における危険・有害な化学物質管理の重要性に関する意識の高揚を広く一般に図るとともに、化学物質管理活動の定着を図ることを目的としたもので、毎年2月に実施することとされている。初回となる今年度は、実務に役立つワークショップ、化学物質管理に関するリスクコミュニケーションが特別イベントとして東京および大阪で開催されるほか、都道府県労働局等での説明会や集団指導等が企画されている。



上野東照宮ぼたん苑 旧寛永寺五重塔を望む
提供: 原 美佳子

理事会報告より

五十嵐千代(東京工科大)

2024年度 第2回 (2024年7月21日開催)

審議事項より抜粋

1. 政策法制度委員会の小規模事業場の提言について、産業保健サービスを小規模事業場へ提供するための提言(案)が修正され再提出された。
2. 委員会委員の追加について、生涯教育委員会から新委員2名の推薦があり、理事長より委嘱されることとなった。
3. 国際事業ワーキンググループの設置について、国際交流担当理事の下に「国際事業ワーキンググループ」を設置することが提案され、承認された。
4. 新入会員について、個人会員約290人と、賛助会員1件について手続きを承認した。

報告事項より抜粋

1. 第97回学会(広島)の開催について、5,367名の参加があったことが報告された。
2. 第98回学会(仙台)、第99回学会(大阪)の準備状況が報告された。
3. 第34回全国協議会(木更津)、第35回全国協議会(徳島)、第36回全国協議会(倉敷)の準備状況が報告された。
4. 学会・全国協議会開催マニュアルについて、2019年に作成されたマニュアル案を更新しており、次回理事会に提出予定であることが報告された。
5. 専門医制度委員会報告:登録者数(指導医534名、専門医162名、専攻医303名)と、研修施設が増加していることが報告された。2024年度第1回専攻医試験を実施し、合格者が10名であった。
6. 許容濃度等に関する委員会より、2024年度総会において、許容濃度等に関する提案が承認され、勧告の更新を進めていることが報告された。
7. 産業保健看護専門家制度委員会報告:登録者数(上級専門家91名、産業保健看護専門家190名)が報告された。
8. 中央選挙管理委員会より、今期の中央選挙管理委員会が発足し、委員長が決まったことや、

選挙関連の日程が報告された。

9. 正会員数:9,076名(2024年7月8日現在)

2024年度 第3回 (2024年10月12日開催)

審議事項より抜粋

1. 表彰制度候補者について各選考委員会より選考結果が報告され、承認された。
2. 国際事業ワーキンググループについて、運営に関する内規案が提出され、承認された。
3. 事務局の移転について、次の通り承認された。
移転先住所:〒160-0007
東京都新宿区荒木町20番地21
インテック88ビル5階
移転日:2024年12月1日
4. 100周年記念事業リレー企画について、基盤事項推進タスクフォースの中にワーキンググループを設置することが提案され、承認された。

報告事項より抜粋

1. 第97回学会(広島)の会計、第98回学会(仙台)、第99回学会(大阪)の準備状況が報告された。
2. 第101回学会は関東地方会、第102回学会は東海地方会の担当にて開催することが提案され、各地方会長から承認を得た。
3. 第34回全国協議会(木更津)の開催、第35回全国協議会(徳島)、第36回全国協議会(倉敷)の準備状況が報告された。
4. 学会・全国協議会開催マニュアルについて旧マニュアルとの変更点等が提示され、次回理事会で審議予定であることが報告された。
5. 産業衛生学雑誌の印刷について、2025年をもって廃止することが報告され、それに伴う定款の変更(案)を次回総会に諮ることが報告された。
6. 専門医制度委員会報告:登録者数(指導医544名、専門医171名、専攻医282名)が報告された。
7. 許容濃度等に関する委員会より、2024年の許容濃度等の勧告、許容濃度の提案理由を産業衛生学雑誌、Environmental and Occupational Health Practiceに掲載したことが報告された。
8. 産業保健看護専門家制度委員会報告:登録者数(上級専門家92名、産業保健看護専門家191名)が報告された。
9. 中央選挙管理委員会より、各地方会の選挙権

保有者数に基づいて決定された代議員及び理事の定数と、今後の選挙関連の日程が報告された。

- 厚生労働省の労働安全衛生法に基づく一般健康診断の検査項目等に関する検討会について、女性特有の健康課題に関する項目や、歯科に関する項目に限定して中間とりまとめが行われることが報告された。
- 正会員数:9,205名(2024年9月30日現在)

幹事会報告より

中野愛子(日立製作所)

2024年度 第2回幹事会 (2024年7月27日)

- 2024年度第1回幹事会議事録案が承認された。
- 五十嵐地方会長より、2025年度関東地方会幹事選任について幹事構成を見直す必要性が示され、学会運営に支障がない範囲で幹事は代議員から選出する方向性が確認された。
- 関東産業医部会の福本幹事より、2024年12月21日開催予定の日本産業衛生学会関東産業医部会研修会(東京慈恵会医科大学)について案内があった。
- 関東産業保健看護部会の帆苅幹事より、第34回全国協議会(2024年10月3~5日開催)でシンポジウムと研修会を開催予定であることが報告された。
- 関東産業衛生技術部会の山野幹事より、第97回日本産業衛生学会(2024年5月22日~25日)にて、専門研修会とフォーラムを開催したことが報告された。第34回日本産業衛生学会全国協議会での企画、および第2回関東地方会学会(2025年7月25・26日、昭和医科大学上條記念館)の企画検討について報告された。
- 関東産業歯科保健部会の大山幹事より、2024年度関東産業歯科保健部会前期研修会(2024年6月16日)がオンライン開催されたこと、第34回産業衛生学会全国協議会にて、産業歯科保健部会企画シンポジウムと教育講演(産業歯科保健部会後期研修会を兼ねる)の企画が報告された。また、部会長および事務局の変更について報告された。
- 電磁界下での作業による健康リスク研究会について、中野幹事長より、新しい世話人候補者を検討していることが代理報告された。
- 健康的な職場づくり研究会の山野幹事より、全国協議会シンポジウムについて共同開催である作業関連性運動器障害研究会と準備を進めていることが報告された。
- 関東地方会ニュースについて、山瀧編集員長より、第50号(2024年8月初旬)、第51号(2025年1月下旬~2月上旬)発刊予定であることが報告された。
- 第34回全国協議会(木更津)準備状況について、宮本企画運営委員長より報告があった。
- 関東地方会学会準備委員会の中野幹事長より、第1回関東地方会学会(高崎)の準備状況が報告された。第2回関東地方会学会(東京)は企画運営委員長を山野幹事、第3回関東地方会学会(神奈川)は企画運営委員長を堤理事のもとで開催されることが報告された。
- 第1回地方会学会準備状況について、浜崎企画運営委員長より参加登録と企画研修、プログラム内容について報告された。
- 第2回地方会学会準備状況について、山野幹事より各委員を選出し、検討を進めていく予定であることが報告された。
- 理事会報告について、五十嵐地方会長より理事会(2024年7月21日)の報告がされた。
- 関東地方会選挙管理委員について、中野幹事長より選挙管理委員長は能川幹事、副委員長は佐藤氏(NTT東日本)が選出されたことが報告された。

学会等開催予定

[第2回関東地方会学会](#)

日時:2025年7月25日(金)・26日(土)
会場:昭和医科大学上條記念館(品川区)
企画運営委員長:山野優子(昭和医科大)

[第98回日本産業衛生学会](#)

日時:2025年5月14日(水)~17日(土)
会場:仙台国際センター、他(仙台市)
企画運営委員長:黒澤 一(東北大)

[第35回日本産業衛生学会全国協議会](#)

日時:2025年11月27日(木)~29日(土)
会場:あわぎんホール(徳島市)
企画運営委員長:斎藤 恵(徳島産業保健総合支援センター/日亜化学工業)

[第95回日本衛生学会学術総会](#)

日時:2025年3月19日(水)~21日(金)
場所:ソニックシティ(さいたま市)
大会長:亀井美登里(埼玉医科大学)

[第32回日本産業精神保健学会](#)

日時:2025年8月23日(土)・24日(日)
場所:法政大学市ヶ谷キャンパス(千代田区)
大会長:大庭さよ(メンタルサポート&コンサル 東京 合同会社)

[第5回日本産業保健法学会](#)

日時:2025年9月20日(土)・21日(日)
場所:北里大学白金キャンパス(港区)
大会長:山田省三(東京弁護士会)

[第33回日本産業ストレス学会](#)

日時:2025年11月28日(金)・29日(土)
場所:北九州国際会議場(北九州市)
大会長:江口 尚(産業医大)

※最新の情報は、各学会ホームページ等でご確認ください。

※掲載を希望される場合は事務局までご連絡ください。

訃報

中明賢二先生

(旧所属:麻布大学)

ここに生前のご指導に感謝いたします。



編集後記

(50号2ページ・稲垣の項よりつづく)編集委員にいただいたおかげで、稲垣の人生は変わったと言って良い。多くの方々と出会い、多くのことを教えていただき、多くの経験をさせていただいた。清水英佑先生、そして当時地方会事務局長(幹事長)だった鈴木勇司先生には言葉に尽くせないほど感謝している。

あれから25年、地方会ニュースも50号となり、稲垣は職場を定年退職となった。医療職・産業保健職の免許を何も持っていない稲垣にとっては、大学の定年退職は産業保健領域からの撤退を意味する。これまでお世話になった数多くの皆様(お名前を挙げるとキリが無いので、ご容赦ください)に感謝しつつ、退場することにしたい。産衛学会、特に関東地方会の更なる発展と、地方会ニュースの歴史が一段と輝くものとなるよう、心から祈っている。本当にありがとうございました。(稲垣)

50号で1号から編集に関わったコメントを寄稿したが、この25年を振り返り社会的にも大きな変化があった。災害大国である日本は台風や洪水なども多い。災害時には働く人達の物質的並びに心身のケアにかかわり、産業保健従事者の重要な役割があることがその都度確認できた。コロナ禍では経験したことのないロックダウンになり、働き方の準備もせずテレワーク中心の業務になり、働く人達の戸惑いが大きかった。臨床とは違い、働き方や職場環境などを考え全人的な寄り添い方ができ、産業医科(原の造語)としての身分を謳歌している。ニュースレターの編集をして、産業保健の最新情報を委員の方々から頂くことができ感謝が尽きない。(原)

編集委員名簿

稲垣弘文、☆大久保靖司、小倉康平、萱場隆人、久保恵子、澁谷智明、谷山佳津子、照屋浩司、富永知美、中谷 敦、○能川和浩、原 美佳子、宮本俊明、◎山瀧 一、山野優子、山本健也、与五沢真吾

☆顧問 ◎編集委員長 ○副委員長 (50音順)